

メッセージアウトライン コロサイ人への手紙 1:18~20 「満ち満ちた神の本質」

[18]「また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです」

「かしら」とは頭のこと。からだは頭によってコントロールされており、頭がなければからだは死んでいるも同然であり無力である。それゆえ教会のなす行為とことばの一つひとつはキリストによって統治されなければならない。教会はキリストの意思に従い、そのことばに従うことによってキリストのからだとして神のみこころを行うことができる。具体的には聖書に示されているキリストのことば、神のことばに従うことである。

「初め(アルケー)」ということばは時間的に第一番目ということの意味するとともに、何かが生じてくる源、活動源を意味する。15節で言われていることと合わせて考えてみると、キリストは天地万物の造り主であり根源であるということを知らされる。そのような意味においてキリストは「初め」なのである。またすべての人間は歴史が始まって以来、生まれ、そして死んでいく。しかし、キリストは十字架につけられ、死んで葬られたが、三日目に死者の中から復活された。もはや死ぬことのない新しいからだをもって復活されたのである。これは息を吹き返したとか単なるよみがえりということではなく、まさに「死者の中から最初に生まれた」と言わなければならないことであり、またこのことはキリストが世の終わりの時に起こるクリスチャンたちの復活の保証となられたということでもある。

このようにキリストはこの世界の創造者であり、教会のいのちと存在の根源者であり、死者の中から最初に生まれたお方であることが示され、それゆえにキリストこそ「すべてのことにおいて第一のもの」(あらゆる点で首位を占め、すべての権威をもっておられるもの)となられたお方なのである。

[19]「なぜなら、神はみこころによって、満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ」

「本質」とはプレローマということばで、その中心的意味は「完全、総体、充満」と言う意味がある。グノーシス主義哲学によるキリスト教の異端はキリストは真の神ではなく神から流出した諸霊力のひとつであると主張する。このような考え方はキリストの本質の格下げをはかることに他ならない。しかしパウロはここではっきりとキリストのうちに神の本質、完全性、総体が宿っていると言う。キリストはその本質において神とまったく同じ方なのである。キリストは被造物ではなく、神からの流出物でもなく、天使でもなく、まことの神であられるのである。

[20]「その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです」

神のみこころはキリストの十字架によっていっそう明らかになる。キリストは神の本質を完全に宿しているお方であるからこそ、十字架の贖い、神と人間との和解を成り立たせることができたのである。それまで神と人との関係が断絶状態であったのに神は御子キリストをこの世に送り、その裂け目をいやし、溝に橋をかけてくださった。それゆえこの和解の主導権は神の側にあり、人間にできることは何もなかった。またこの和解は十字架の血によってなされた。十字架上で流されたキリストの血は、神と人間との平和を回復するための贖いのいけにえであったのである。
→ヨハネ3:16

この和解の範囲は人間だけに限らず「万物、地にあるものも天にあるもの」も含まれる。人間の罪のゆえにあらゆる被造物が虚無に服し、滅びの束縛のもとにあった。しかし、キリストによる和解はそれらすべてのものにも及んでいるのである。→ローマ8:19~21

御子イエス・キリストを信じ贖われた者は、やがて新しい復活のからだをいただき神とともに永遠に生きることになる。そしてこの被造物世界も新しいものとされるのである。→黙示録21:1

私たち人間のなすべきことはただ一つ。自分の罪を悔い改めて、今や十字架上で和解をなしてくださったイエス・キリストを信じることである。そうすれば私たちは神との平和の中に生きることができ、またすべてのすべてである御子キリストから力をいただいて、この世にあって力強く生きることができる。神は私たちの滅ぶべきからだを新しく復活のからだに造り変えることのできるお方である。私たちはこの愛の神、和解の神、イエス・キリストの神を信じ続け、平和と喜びと力に満たされてこの地上での歩みを進めていくことができるのである。